

第5章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

5-1 目指すべき将来像と重点戦略、施策の方向性

5-1-1 目指すべき将来像と重点戦略の選定

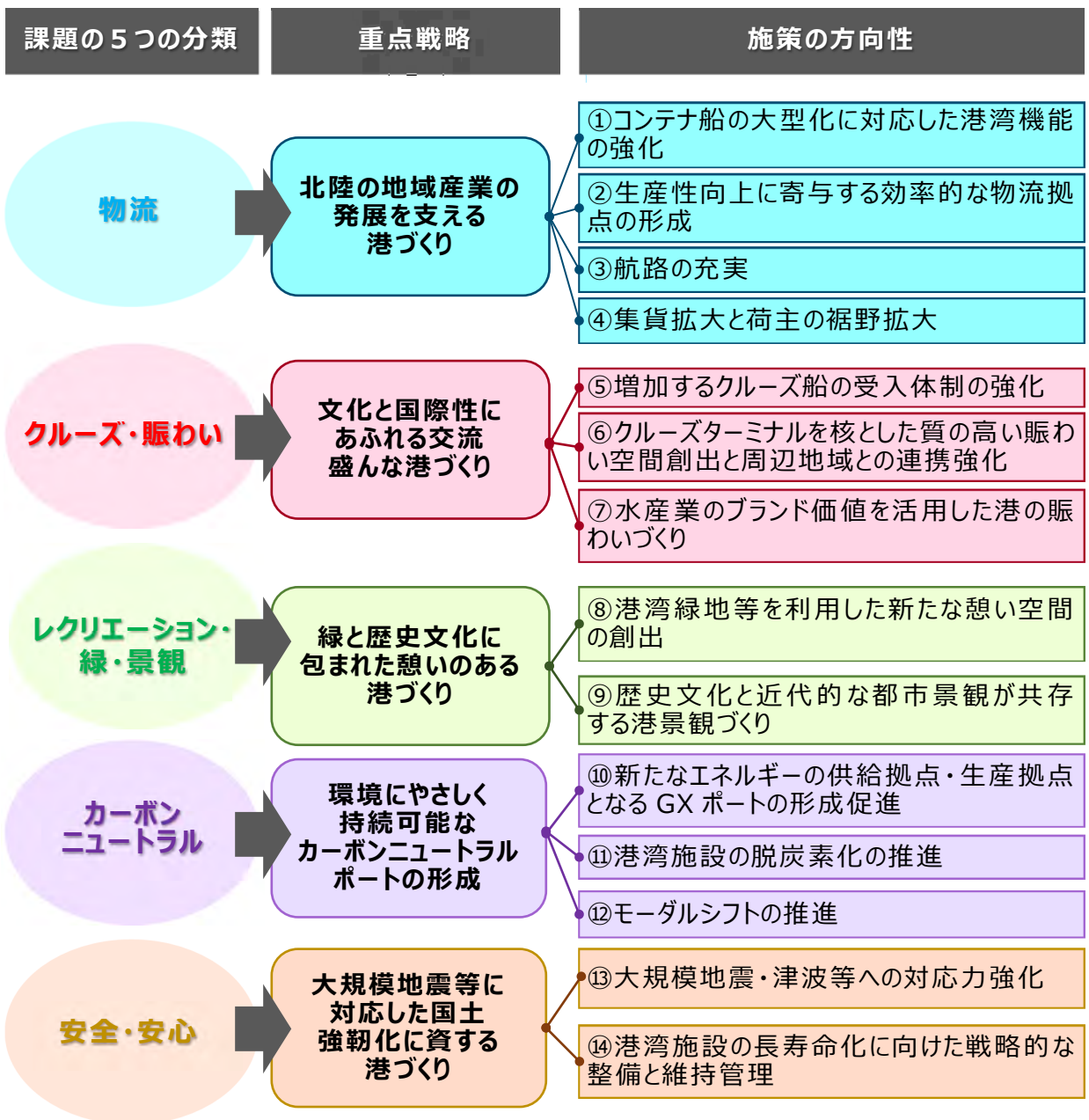
金沢港の課題を踏まえて3つの目指すべき将来像（基本理念）と5つの重点戦略を選定しました。



5-1-2 重点戦略の実行に向けた施策の方向性

将来像の実現に向け、重点戦略として「北陸の地域産業の発展を支える港づくり」、「文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり」、「緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり」、「環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成」、「大規模地震等に対応した国土強靱化に資する港づくり」の5つを定めました。

この5つの重点戦略は、課題の5つの分類に対応しており、それぞれの重点戦略を実行させるための14の施策の方向性をもとに具体の施策を定めています。

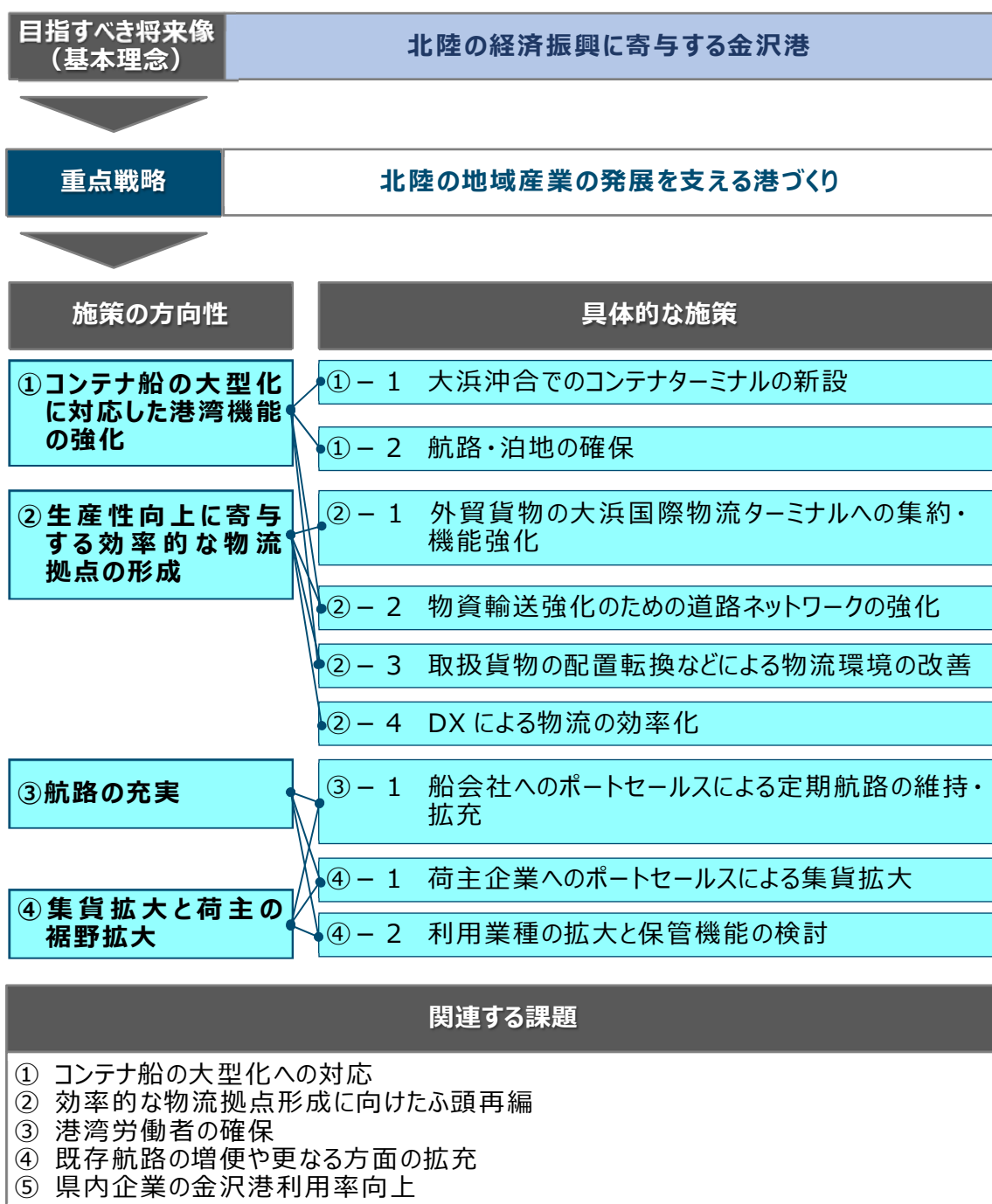


5-2 将来像の実現に向けた重点戦略と施策

将来像の実現に向けた重点戦略、施策の方向性を下記のとおり定めました。将来像の実現に向けて、関連計画との整合性を図るとともに、金沢港の関係機関と連携し、具体的な施策を推進していきます。

5-2-1 物流に関する重点戦略と施策

目指すべき将来像を実現するために、物流に関する重点戦略と4つの施策の方向性、9つの具体的な施策を定めました。



(1) コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化

施策①-1：大浜沖合でのコンテナターミナルの新設 (短・中期)

施策①-2：航路・泊地の確保 (-13m～14m 化) (短・中期～長期)

コンテナ船の大型化やコンテナ貨物の増加に対応するため、これまでの御供田ふ頭から大浜沖合に新たなコンテナターミナルを機能移転し、地域間競争に負けない港づくりを目指します。



図 5-1 大浜沖合でのコンテナターミナルの新設と航路・泊地の確保



図 5-2 現在の御供田国際コンテナターミナル

(2) 生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成

施策②-1：外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化（短期）

施策②-2：物資輸送強化のための道路ネットワークの強化（短・中期）

戸水ふ頭から大浜国際物流ターミナルへの外貿貨物の集約に加え、貨物や大型クルーズ船の増大に対応するため、大浜岸壁を延伸させ、貨物船（4万トン級）の2隻同時着岸や、大型クルーズ船と貨物船との2隻同時着岸も可能となるよう機能強化を図るとともに、物資輸送強化のための道路ネットワークの強化を図ります。



図 5-3 外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化と物資輸送強化のための道路ネットワークの強化

施策②-3：取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善（中期～長期）

大浜沖合へのコンテナターミナル移転後、五郎島ふ頭から御供田ふ頭へ砂利・砂や金属くずの貨物を配置転換し、物流環境の改善を目指します。

配置転換後は、五郎島ふ頭を海上保安庁巡視船、作業船などの船溜まりゾーンとして確保します。



図 5-4 五郎島ふ頭の現状



図 5-5 取扱貨物の配置転換による物流環境の改善

施策②-4：DXによる物流の効率化 **(短期)**

サイバーポートの活用による港湾業務の手続きを電子化するとともに、港湾関連情報処理システムの活用による岸壁予約状況と船舶運航情報をリアルタイムで把握できるデジタル環境を整え、港湾物流全体の生産性向上と労働環境改善を目指します。

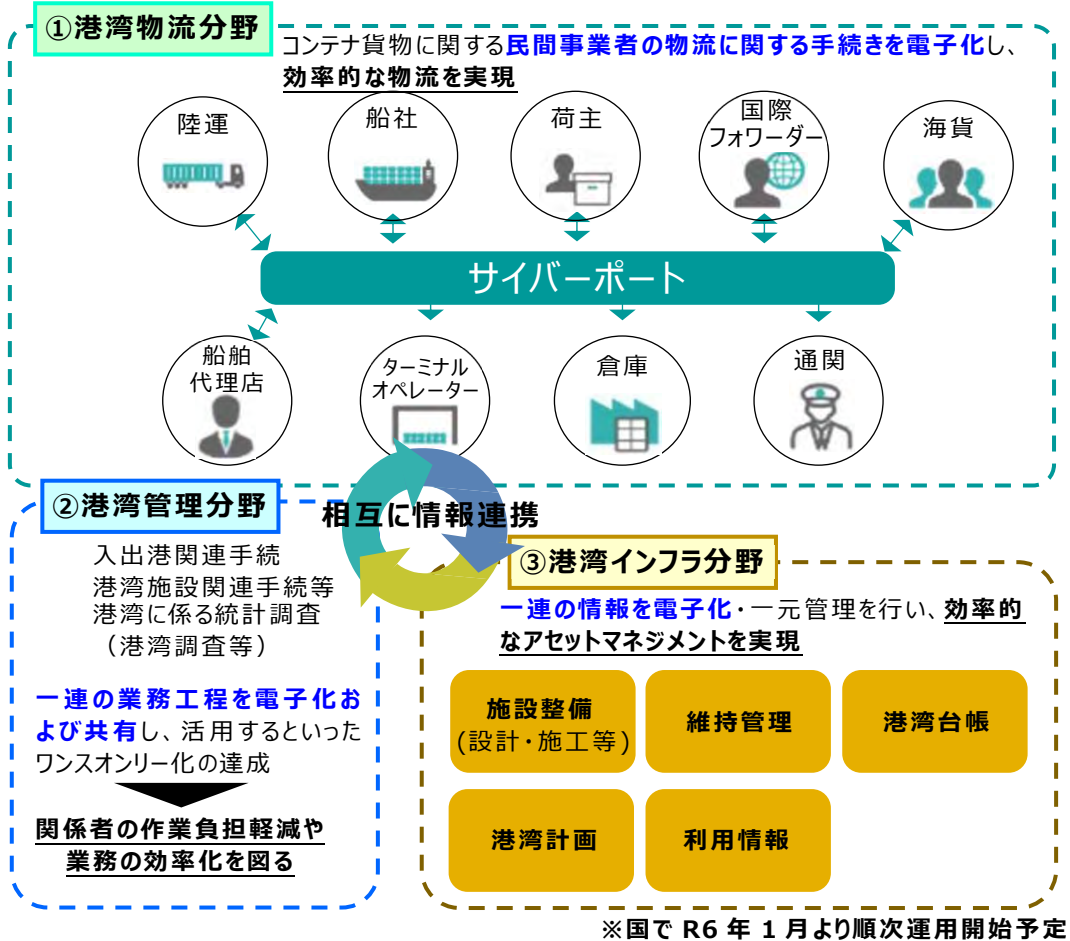


図 5-6 サイバーポートの活用

港湾関連情報処理システム

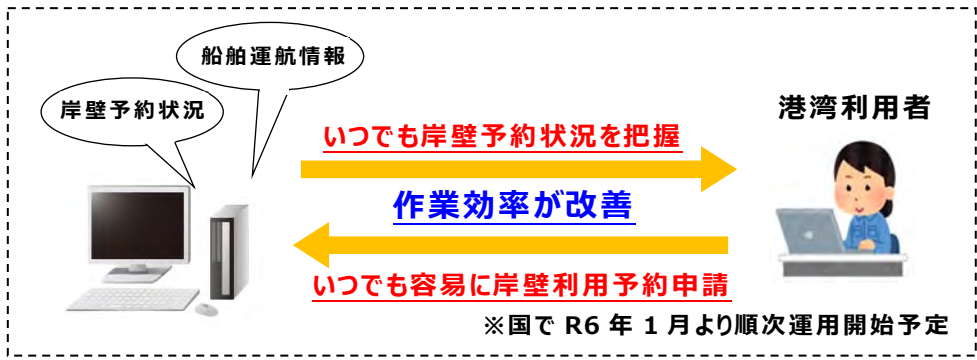


図 5-7 港湾関連情報処理システムの活用

(3) 航路の充実

施策③-1：船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充 (短・中期～長期)

国内外での金沢港セミナーの開催、企業訪問などの積極的な船会社へのポートセールスや定期航路の就航の補助、冬季入出港への補助、さらには物流アドバイザーと連携した誘致活動を行い、定期航路の維持・拡充を図ります。

- 官民一体となったポートセールス
国内外での金沢港セミナーの開催、企業訪問 等
- 船会社への支援
定期航路の就航の補助、冬季入出港への補助 等
- 物流アドバイザーの設置
物流アドバイザーと連携した誘致活動 等

図 5-8 取り組みの方向性

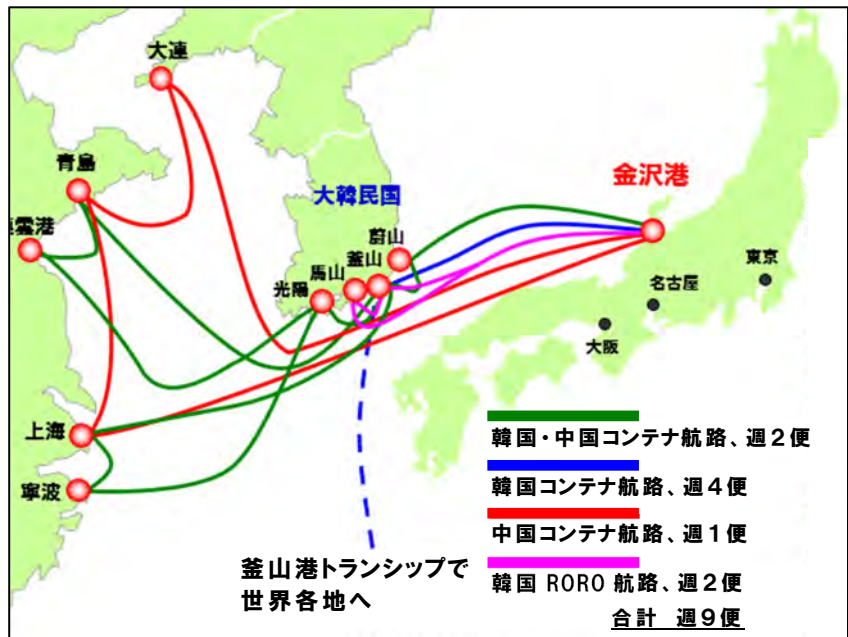


図 5-9 金沢港の国際定期航路

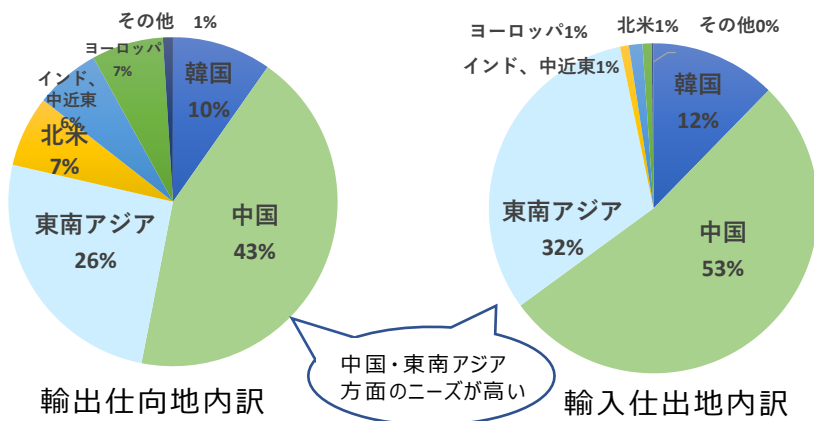


図 5-10 コンテナ貨物の仕向地・仕出地別内訳

(4) 集貨拡大と荷主の裾野拡大

施策④-1：荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大（短・中期～長期）

国内外でのセミナーの開催や企業訪問など積極的な荷主企業へのポートセールスや利用拡大に対する補助、さらには、国際コンテナハブ港との連携により、金沢港への集貨拡大を図ります。

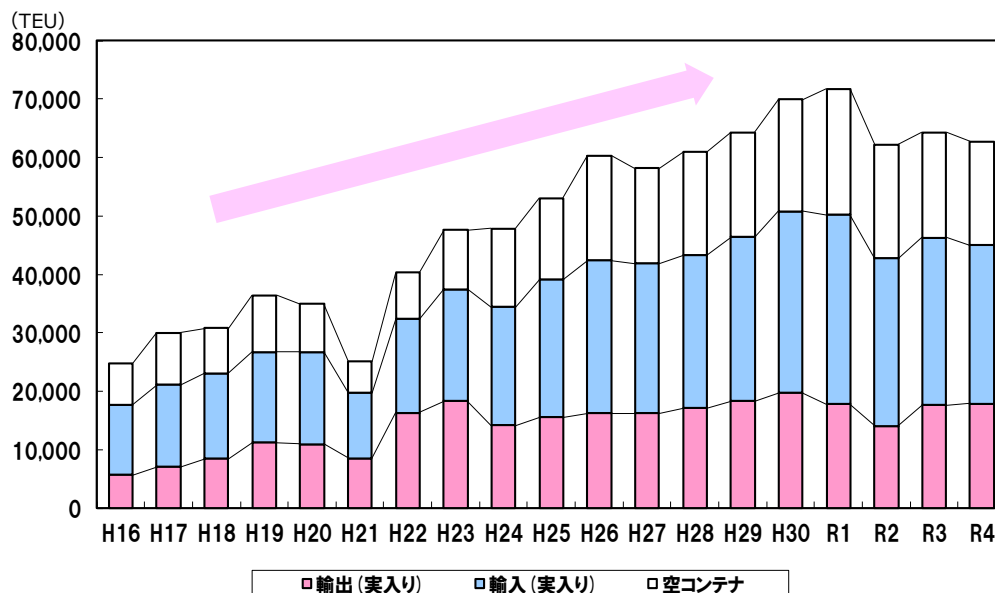


図 5-11 金沢港のコンテナ貨物量の年次推移



図 5-12 金沢港への集荷拡大

- 官民一体となったポートセールス
国内外でのセミナーの開催、企業訪問 等
- 荷主企業への支援
金沢港への利用転換と利用拡大の補助 等
- 物流アドバイザーの設置
アドバイザーの人脈を活かしたセールス 等
- 国際コンテナハブ港湾との連携
釜山港との港湾物流に関する連携協定締結 等

図 5-13 取り組みの方向性

施策④-2：利用業種の拡大と保管機能の検討 (短・中期～長期)

金沢港の利用業種の拡大を図るため、リーファーコンテナを活用した冷蔵、冷凍の食品等を輸送する荷主企業に対する支援や小口混載貨物に対する支援、さらには、金沢港の利用促進に向けた関係者間の連携強化等により利用荷主の裾野を広げるよう取り組んでいきます。

また、荷主企業から貨物搬入を柔軟に対応できる倉庫を求める声があることから、保管機能に対するニーズ調査・分析といった検討を行っていきます。

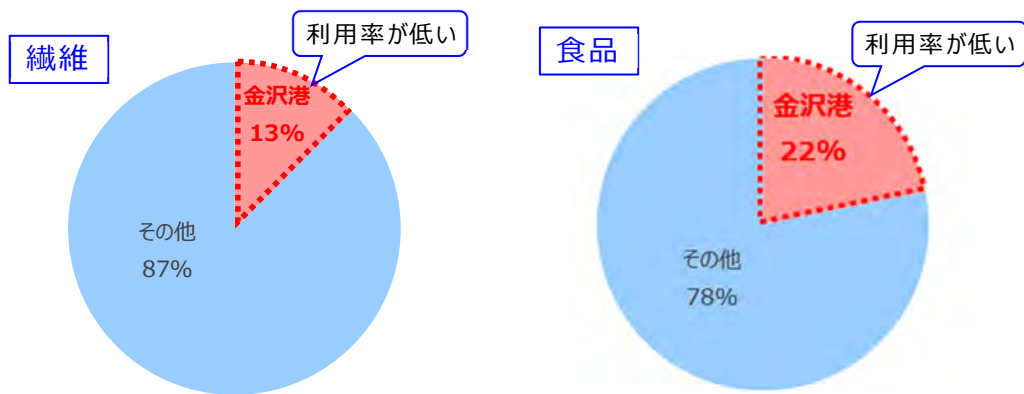


図 5-14 県内企業の輸出貨物の金沢港利用率

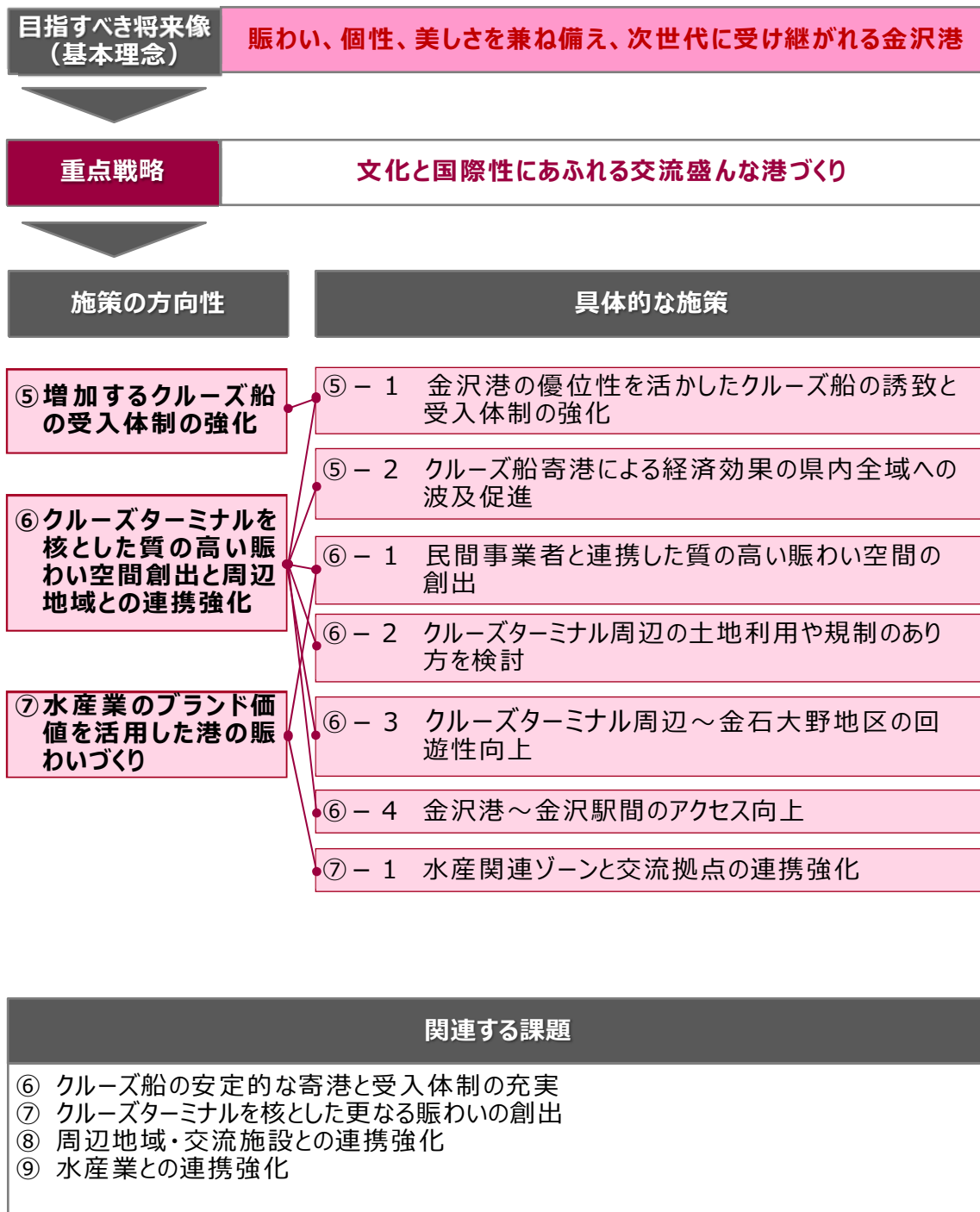


- 利用業種の拡大**
 - リーファーコンテナを活用した食品の輸出拡大支援
 - 小口混載貨物に対する支援 等
 - 金沢港の利用促進に向けた関係者間の連携強化 等
- 保管機能の検討**
 - 金沢港周辺の保管機能に対するニーズの調査・分析

図 5-15 利用業種の拡大と保管機能の検討

5-2-2 クルーズ・賑わいに関する重点戦略と施策

目指すべき将来像を実現するために、クルーズ・賑わいに関する重点戦略と3つの施策の方向性、7つの具体的な施策を定めました。



(1) 増加するクルーズ船の受入体制の強化

施策⑤-1：金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化 ソフト施策（短・中期～長期）、ハード施策（中期～長期）

金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化を行うため、経済効果の高いラグジュアリー船の誘致や、北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致を進めます。また、受入機能の強化としては、シャトルバスや物販の充実や、ハード面では、クルーズ船の増加や多様な需要に対応できるよう戸水ふ頭の受け入れ環境の強化を行い、石川県成長戦略の目標値である年間60本のクルーズ寄港を定着させ、賑わいと交流のある港づくりを目指していきます。

・経済効果の高いクルーズ船(ラグジュアリー船)の誘致

・北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致

→ 海外クルーズ見本市への出展や船会社訪問、他港と連携した共同プロモーションの実施、船会社・旅行社等の幹部招へい など

・受入機能の強化

→ シャトルバスや物販などの充実

利便性向上のためシャトルバスの運行を促進し、物販や県民による歓送迎の充実を図る。

→ クルーズ船の増加や多様な需要に対応できるよう戸水ふ頭の受け入れ環境の強化
既存の物流機能に加え、クルーズ船の2隻同時着岸など多様なニーズに対応できるよう戸水岸壁及び背後ふ頭用地のリニューアルを図る。〈ハード施策〉

○クルーズ船による経済効果

R5 乗客数見込み約 6 万 3 千人×2 万 5 千円 = **15.8 億円**

※H27 乗客数約 8 千人×2 万 5 千円 = **2.0 億円**

<直接消費額>

- ・金沢港に入港した乗客：約 2 万 5 千円/人
- ・ラグジュアリー船乗客：約 3 万 4 千円/人
- ・発着クルーズで前後泊した乗客：約 4 万 5 千円/人（宿泊費含む）

※県の調査（H28）より算出



図 5-16 クルーズ船の受入体制の強化（イメージ）

**施策⑤-2：クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進
(短・中期～長期)**

今後、寄港地ツアーの多様化を図ることで、金沢港の周辺地域や加賀・能登、さらには、北陸全域へ経済効果を波及させる取り組みを推進します。

加賀・能登、富山・福井にも魅力的な観光地が多い
→千里浜、和倉温泉、加賀温泉郷、
黒部アルペンルート、永平寺、東尋坊など



かつて北前船で栄えた港町の面影を残す魅力ある
観光資源が集積
→金石・大野のこまちなみ、寺社、町屋、飲食
施設、銭屋五兵衛記念館 など

【金沢港周辺地域の観光ツアー例】



図 5-17 金沢港からの寄港地ツアーの多様化

(2) クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化

- 施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出（短・中期）**
- 施策⑥-2：クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討（短・中期）**

クルーズターミナル周辺や金沢リンクス周辺について、民間事業者とともに人々が集い、交流ができる質の高い賑わい空間の創出を図ります。

また、今後の開発動向や立地企業の意向なども踏まえた、土地利用や規制のあり方について検討を行います。



図 5-18 クルーズターミナルと金沢リンクス周辺の位置図



図 5-19 クルーズターミナル周辺の土地利用状況

施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上
(短・中期～長期)

歩行空間の確保やサイクリング環境の向上を図るとともに、交通事業者や市、地元が連携した地域運営交通や EV カート、水上バスなど、多様な移動手段の活用により、回遊性の向上を目指します。



図 5-20 クルーズターミナルと周辺施設



図 5-21 多様な移動手段

施策⑥-4：金沢港～金沢駅間のアクセス向上（短・中期～長期）

第3次金沢交通戦略に基づき 50m 道路でのバス路線の強化やモビリティハブの充実、デジタル交通サービスの活用など、金沢港周辺におけるバス等のサービス水準向上を目指します。

なお、クルーズ船寄港時やイベント開催時において、事業者によるシャトルバス運行の充実を促します。



図 5-22 現在の金沢駅から金沢港までのバスのルート



出典：第3次金沢交通戦略（金沢市）

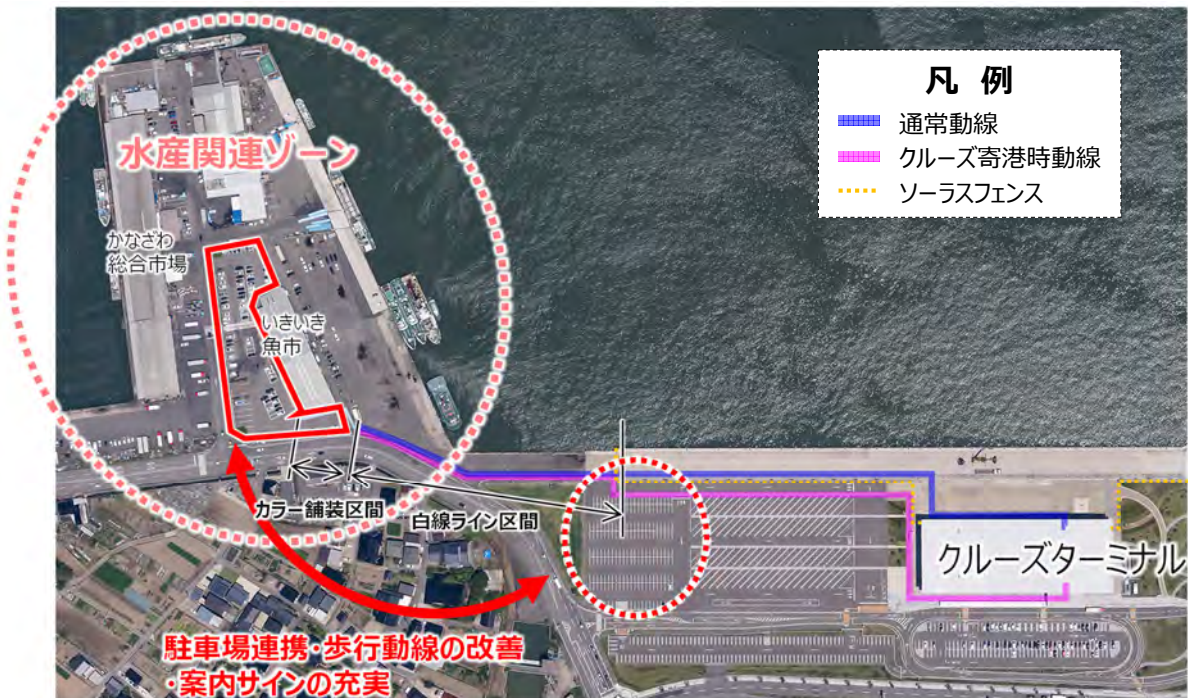
図 5-23 第3次金沢交通戦略が目指す姿（R5.3 金沢市）

(3) 水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり

施策⑦-1：水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化

(短期)

水産関連ゾーンとクルーズターミナルの駐車場との連携や歩行動線の改善、案内サインの充実など連携強化に努めます。



<水産関連ゾーン～ターミナル間歩道の現状>



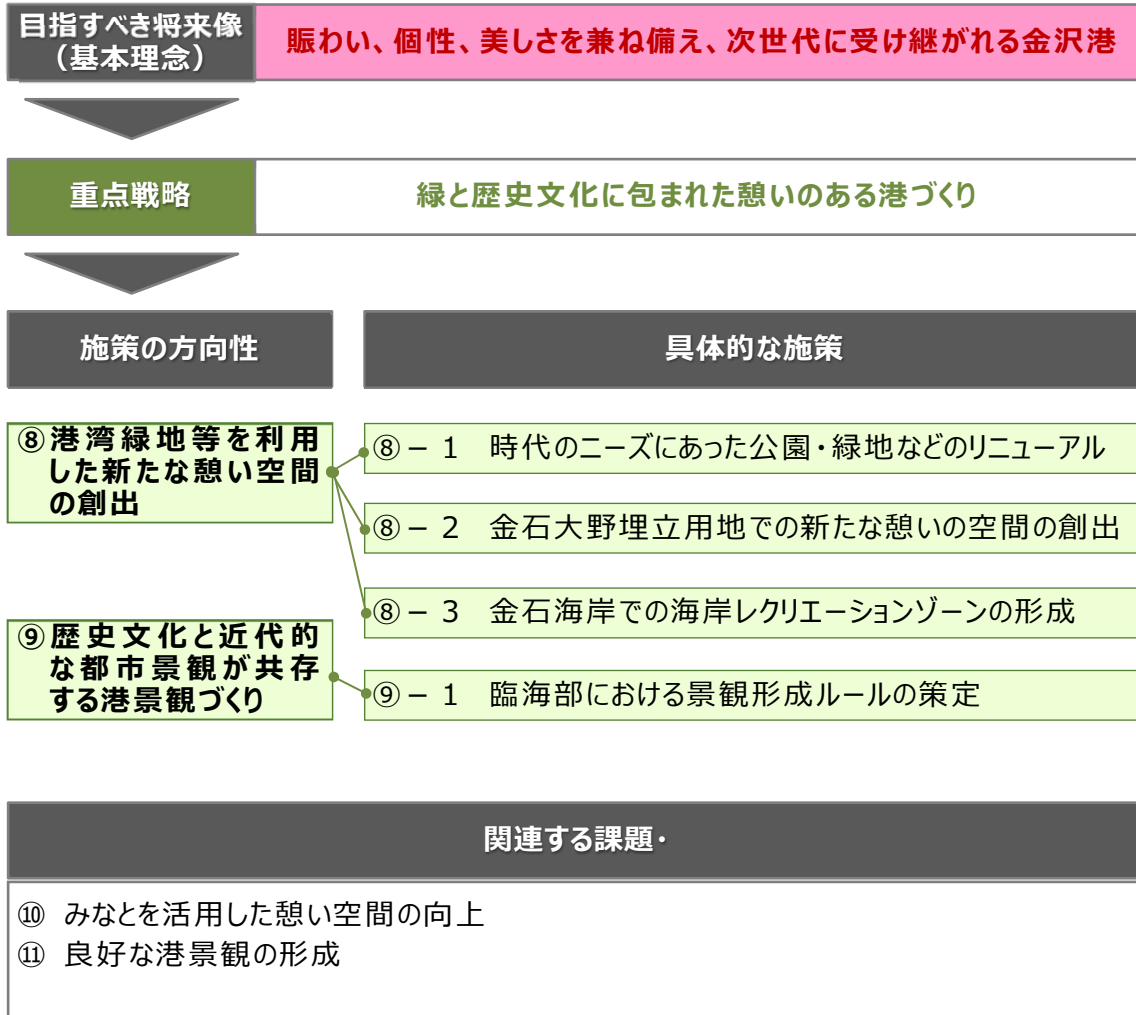
図 5-24 水産関連ゾーン～クルーズターミナル間のアクセス歩道



図 5-25 かなざわ総合市場の完成イメージパース

5-2-3 レクリエーション・緑・景観に関する重点戦略と施策

目指すべき将来像を実現するために、レクリエーション・緑・景観に関する重点戦略と2つの施策の方向性、4つの具体的な施策を定めました。



(1) 港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出

施策⑧-1：時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル

(中期～長期)

既存の公園や緑地を、開放的で憩いのある空間やイベントなどで人の賑わう多目的な空間となるよう、港と自然が調和した魅力ある緑地空間のリニューアルに努めます。



図 5-26 クルーズターミナル周辺の公園



開放的で憩いのある空間づくり
(瑞穂公園：愛知)



イベントなどで賑わう多目的な空間づくり
(大師公園：神奈川)

図 5-27 緑地リニューアルのイメージ

施策⑧-2：金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出（中期～長期）
施策⑧-3：金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成（中期～長期）

金石大野埋立用地や隣接する金石海岸を、県民が憩い、集えるレクリエーションの場やマリンレジャーなどが楽しめる空間とするため、地域住民と連携し、検討を進めます。



図 5-28 金石大野埋立用地の活用案



図 5-29 土地利用のイメージ

(2) 歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり

施策⑨-1：臨海部における景観形成ルールの策定

(短期)

海の玄関口にふさわしい優美で緑に包まれた港景観を目指すため、「臨海部における景観形成ルールの策定」を金沢市と連携し検討を進め、昔からの自然や歴史と近代的な都市景観が共存する金沢港の新たな顔づくりを図っていきます。

< テーマ > 『海の玄関口にふさわしい優美で緑に包まれた港景観を目指して』
< 基本方針 >

伝統的な色で玄関口を彩ります

金沢港に訪れたいくなる仕掛けづくりや旅の始まりをおもてなしする仕掛けづくりとして、ライトアップによる夜間景観の創出に加え、加賀百万石の伝統的な色彩である加賀五彩をアクセント色として活用し、海の玄関口としての魅力向上を目指します。

金沢港らしい色で玄関口を美しく、綺麗に保ちます

伝統的空間と調和しつつ、港らしい色(グレー系等)を基調とすることや、景観を阻害する要素を取り除くことで、金沢港クルーズターミナル等のランドマークの白色を際立たせることにより、誰が見ても美しいと思える港湾空間を目指します。

緑のおもてなしにより自然が堪能できる港を形成します

海の玄関口(金沢港)と陸の玄関口(金沢駅)を繋ぐ、けやき並木等の美しい緑や、港周辺の松林等の風情ある緑の保全・育み、緑豊かな空間づくりを通し、自然が堪能できる港の形成(緑のおもてなし)を目指します。

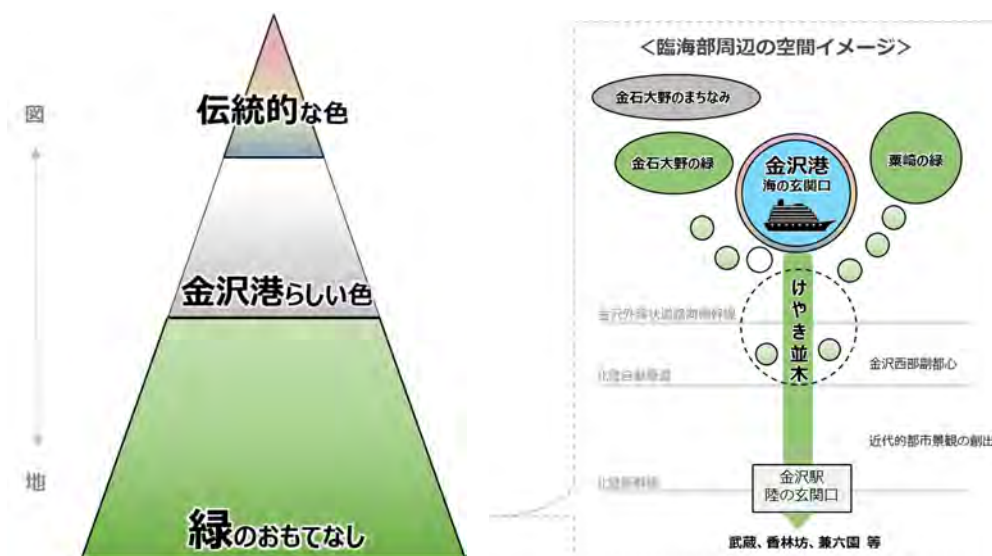


図 5-30 基本方針と空間イメージ

基本方針を踏まえた具体的なイメージとして、以下の様な例が考えられます。

(遠景)

港全体（遠景）では、グレー系を基調とし、ランドマークとなる建物は白色系とするなど、港の中でランドマークとなる建物を際立たせることを検討します。



ランドマークとなる白色の例



クルーズターミナル



かなざわ総合市場 (外観イメージ)

(近景)

近景では、伝統的な加賀五彩等を品よく際立たせるため、建物や工作物などにアクセント色等として活用することを検討します。



上屋等へのアクセントイメージ

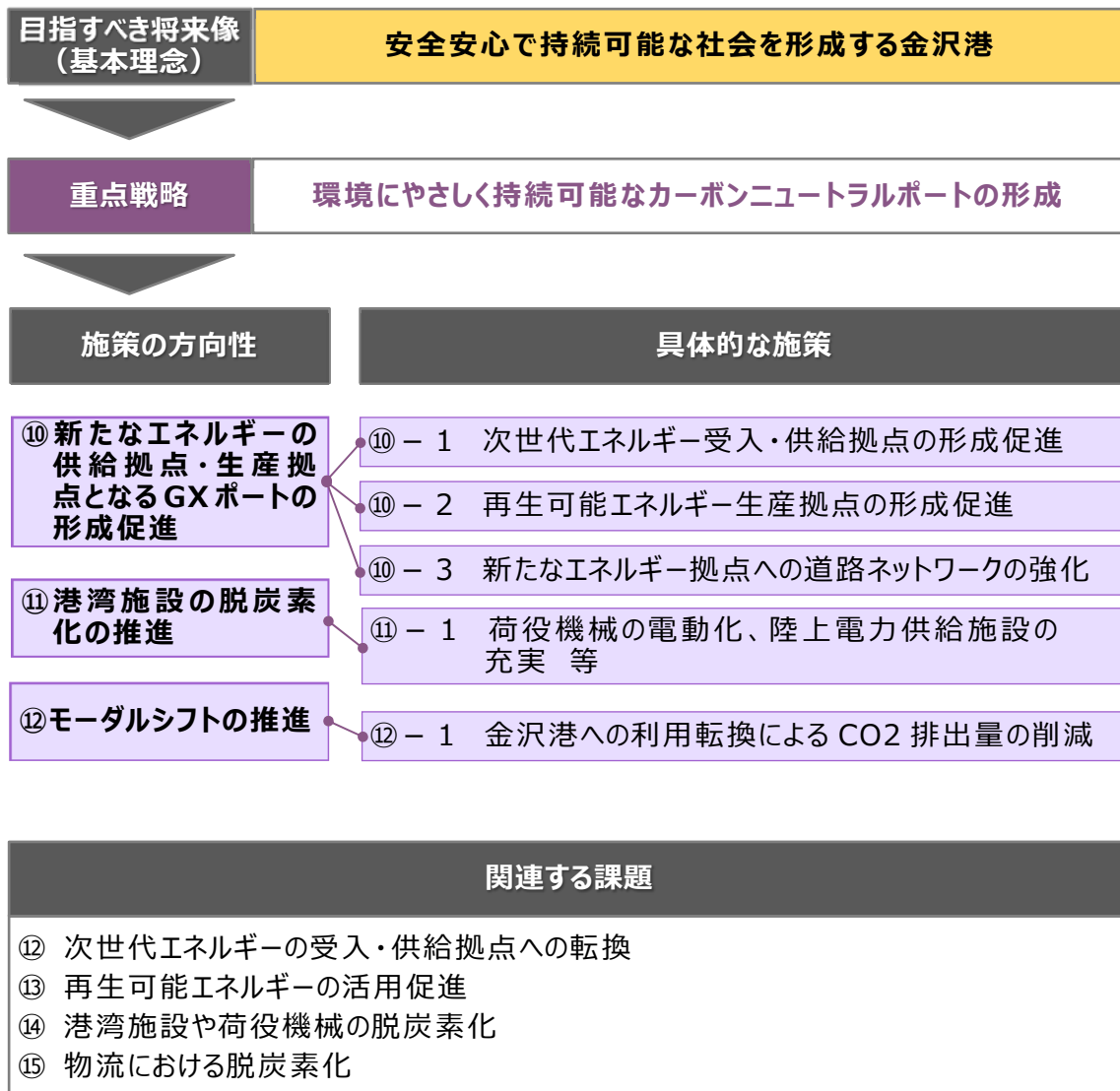


賑わい拠点周辺 (クルーズターミナル) への加賀五彩活用イメージ

図 5-31 金沢港における色彩のイメージ例

5-2-4 カーボンニュートラルに関する重点戦略と施策

目指すべき将来像を実現するために、カーボンニュートラルに関する重点戦略と3つの施策の方向性、5つの具体的な施策を定めました。



(1) 新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となる GX ポートの形成促進

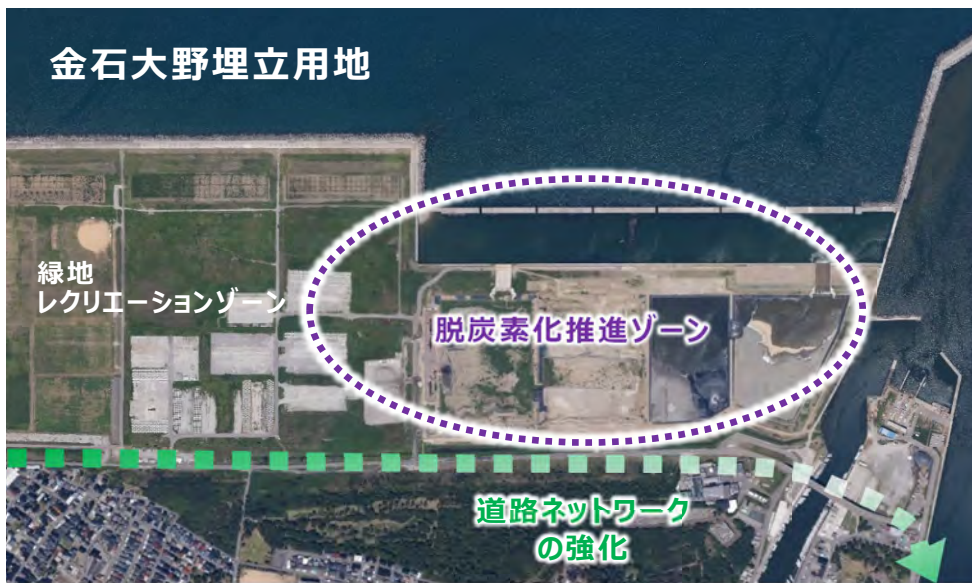
施策⑩-1：次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進 (中期～長期)

施策⑩-2：再生可能エネルギー生産拠点の形成促進 (中期～長期)

施策⑩-3：新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化

(中期～長期)

金石大野埋立用地の一部を脱炭素化推進ゾーンと位置付け、今後の社会の動向を注視しながら、新たなエネルギーに対する要請に応じて活用する用地として検討していきます。



新エネルギーの受入・供給基地



LNG 燃料供給船

LNG バンカリング船の基地



洋上風力発電の組立基地



太陽光発電施設

出典：国土交通省 HP

図 5-32 土地利用のイメージ

(2) 港湾施設の脱炭素化の推進

施策⑪-1：荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実等

(短・中期～長期)

カーボンニュートラルポートの形成に向け、官民が連携して取り組み、次世代エネルギーを活用した荷役機械や陸上電力供給施設といった新技術の開発動向を注視しながら、港湾施設の脱炭素化を進めます。

ハイブリッド型トランスファークレーン 電動式フォークリフト



出典：(株)小松製作所

図 5-33 環境負荷の少ない荷役機械の導入 図 5-34 陸上電力供給施設の導入



図 5-35 照明灯のLED化



出典：日野自動車(株)

図 5-36 次世代自動車の導入



図 5-37 環境負荷の少ない引船の導入

(3) モーダルシフトの進展

施策⑫-1：金沢港への利用転換によるCO₂排出量の削減

(短・中期～長期)

官民一体となったポートセールスや荷主企業への支援を行い、県内企業に対し、CO₂ 排出量が多い陸上輸送から海上輸送への利用転換を推進することで、CO₂ 排出量の削減を目指します。

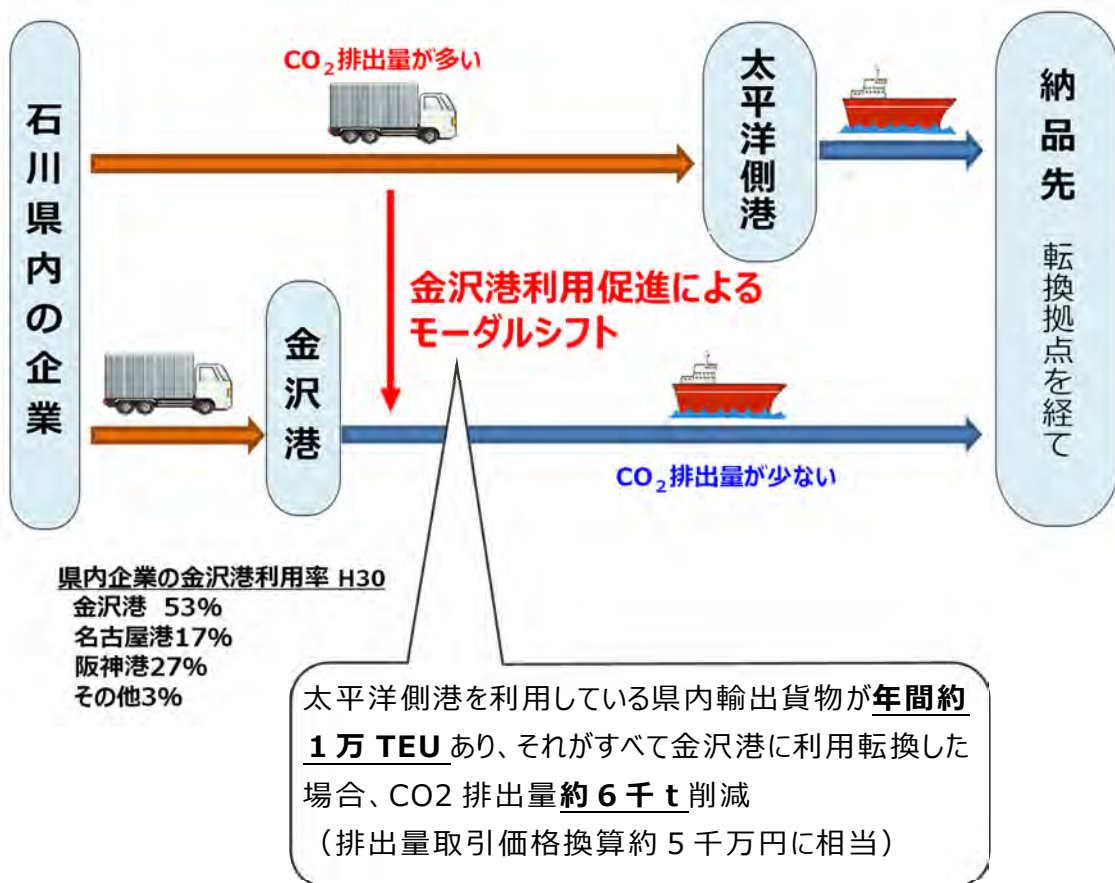
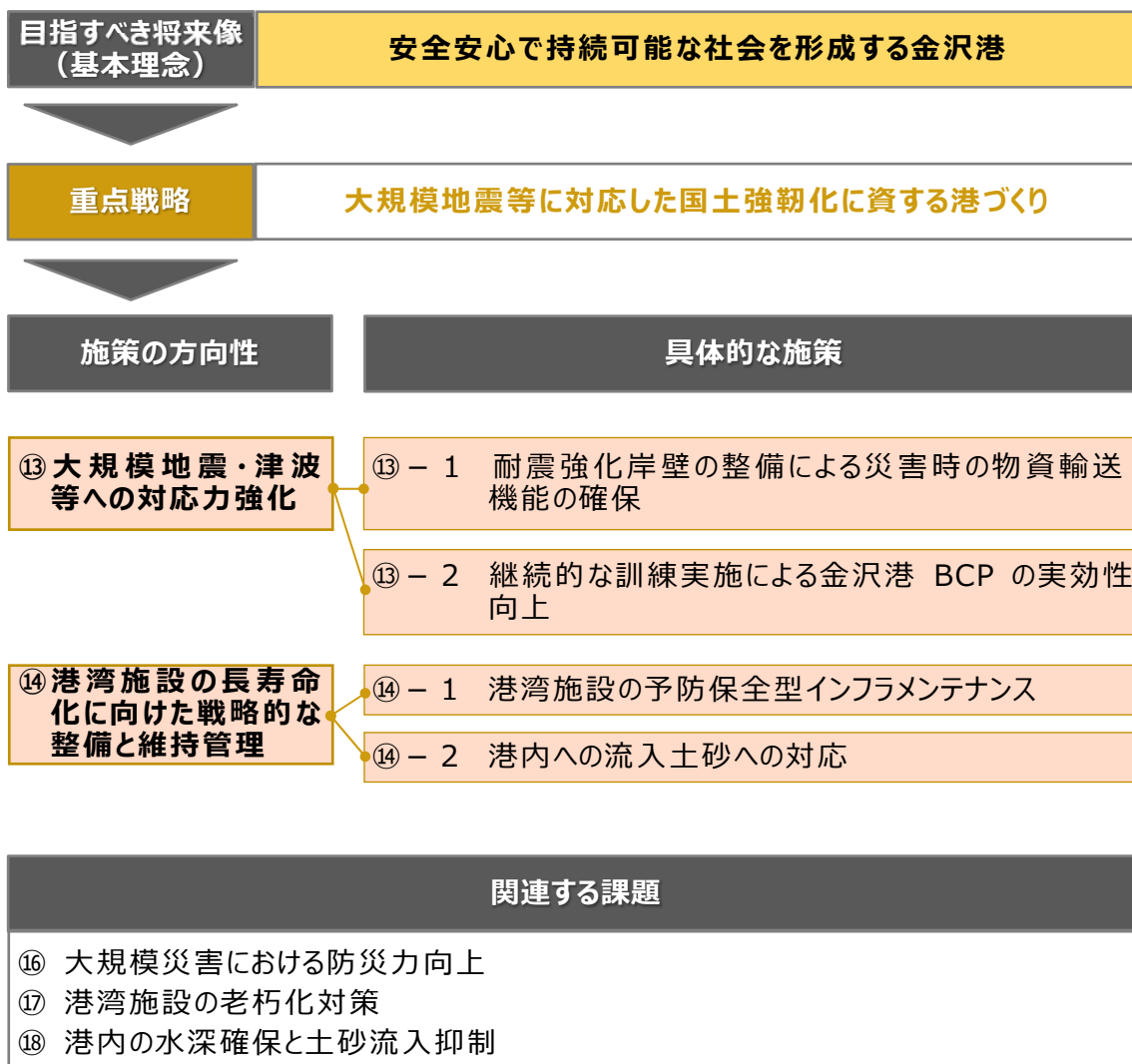


図 5-38 モーダルシフトのイメージ図

5-2-5 安全・安心に関する重点戦略と施策

目指すべき将来像を実現するために、安全・安心に関する重点戦略と2つの施策の方向性、4つの具体的な施策を定めました。



(1) 大規模地震・津波等への対応力強化

施策⑬-1：耐震強化岸壁の整備による災害時の物資輸送機能の確保
 (中期～長期)

施策⑬-2：継続的な訓練実施による金沢港 BCP の実効性向上
 (短・中期～長期)

災害時の幹線貨物・緊急物資受入のため耐震強化岸壁を整備し、被災地への救援・復旧活動を後押しします。

また、港湾 BCP に基づき、継続的に訓練を実施することで、災害時の対応力強化を図ります。



図 5-39 耐震強化岸壁位置図と他港での訓練の様子

(2) 港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理

施策⑭-1：港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス（短・中期～長期）

老朽化した港湾施設の戦略的な維持管理による施設の長寿命化及び更新費用のコスト縮減を図ります。

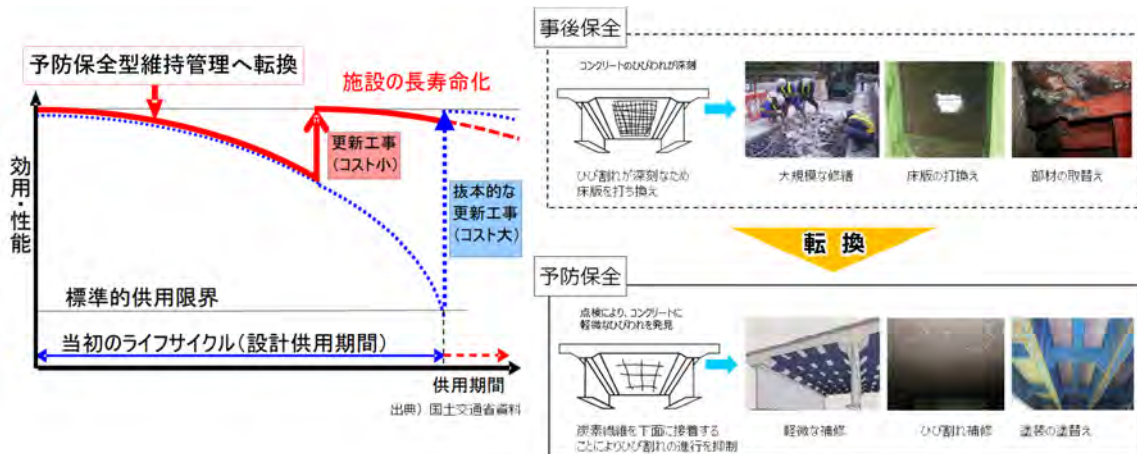


図 5-40 イメージ（港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス）

施策⑭-2：港内への流入土砂への対応

（短・中期～長期）

港内への流入土砂の浚渫により水深を確保し、船舶の航行安全向上を図ります。



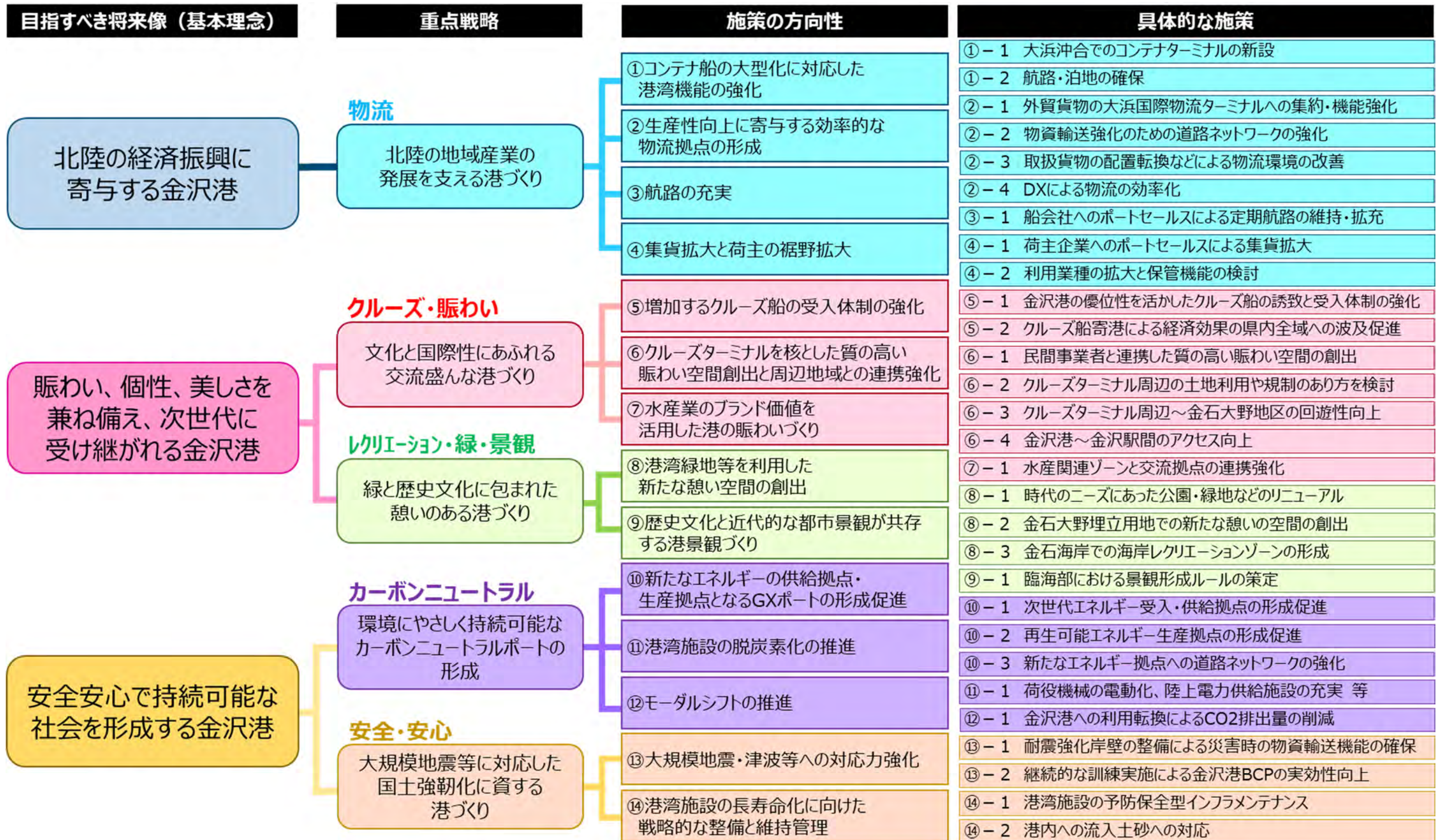
図 5-41 土砂流入位置図



図 5-42 泊地浚渫状況

5-2-6 重点戦略と施策体系図

目指すべき将来像を実現させるため、重点戦略と施策体系図を以下のとおりを設定しました。



5-3 具体的な施策と目標時期

【物流】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
①コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化	①-1 大浜沖合でのコンテナターミナルの新設			大浜地区
	①-2 航路・泊地の確保			大浜地区
②生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成	②-1 外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化			大浜地区
	②-2 物資輸送強化のための道路ネットワークの強化			大浜地区 北地区 等
	②-3 取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善			北地区 南地区
	②-4 DXによる物流の効率化			—
③航路の充実	③-1 船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充			—
④集貨拡大と荷主の裾野拡大	④-1 荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大			—
	④-2 利用業種の拡大と保管機能の検討			—

【クルーズ・賑わい】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
⑤増加するクルーズ船の受入体制の強化	⑤-1 金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化			南地区
	⑤-2 クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進			—
⑥クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化	⑥-1 民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出			南地区
	⑥-2 クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討			南地区
	⑥-3 クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上			南地区 西地区 等
	⑥-4 金沢港～金沢駅間のアクセス向上			南地区
⑦水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり	⑦-1 水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化			南地区

【レクリエーション・緑・賑わい】緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短中期：概ね15年後	長期：概ね30年後	
⑧ 港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出	⑧-1 時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル			南地区
	⑧-2 金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出			金石地区
	⑧-3 金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成			金石地区
⑨ 歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり	⑨-1 臨海部における景観形成ルールの策定			-

【カーボンニュートラル】環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
⑩ 新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となるGXポートの形成促進	⑩-1 次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進			金石地区
	⑩-2 再生可能エネルギー生産拠点の形成促進			金石地区
	⑩-3 新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化			金石地区
⑪ 港湾施設の脱炭素化の推進	⑪-1 荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実 等			-
⑫ モーダルシフトの推進	⑫-1 金沢港への利用転換によるCO2排出量の削減			-

【安全・安心】大規模地震等に対応した国土強靱化に資する港づくり

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
⑬ 大規模地震・津波等への対応力強化	⑬-1 耐震強化岸壁の整備による災害時の物資輸送機能の確保			大浜地区
	⑬-2 継続的な訓練実施による金沢港BCPの実効性向上			-
⑭ 港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理	⑭-1 港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス			-
	⑭-2 港内への流入土砂への対応			-